Moon Village勉強会

人文社会科学分科会　検討中間報告

現段階の条件設定

月面上に、1000名の「村」を建設する。

→居住環境だけでなく、いかなるcommunity（社会）を設計し、そこでの「文化」を構想するか。

文化をめぐる二つの次元の区分

「CULTURE」:大文字の文化（人類文化）

→生物学的適応を含む総合的、長期的適応の形式としての文化

「Culture」：小文字の文化（localな文化）

ここでの「文化」とは、いわゆる芸術などの「High　culture」ではなく、言語・非言語コミュニケーション、生活習慣、無意識の身体動作、価値観、行動規範など、人間を他の生物と分かち、社会を形成・存続するための、環境に対する独特の適応形式

→当面の環境に適応するための地域的、短期的適応としての文化

人類学的視点と時間軸

コミュニティ単位での社会・文化適応、発展を想定

（家族形態はコミュニティ(社会）との相互関係で形成される）

短期：コミュニティの再現

地上の機能的（目的的）組織・システムの再現

Human machine interfaceの組み込み

月面の環境操作

中期：コミュニティの構造化（システム化）月面コミュニティにおける独自社会・文化形態

地上の多様な社会・文化の適用

長期：形質人類学（自然人類学）的変化

環境に適応した身体的変化と多様性の発生

→多様性を組み込んだ社会・文化への改編

→人類進化（Neo Homo sapiens）

前提となる検討条件

1

. １000名の「村」について1. その規模を維持しつづけるか

→プロトタイプとなるコミュニティの形成、これを基盤とした拡大

２. 規模だけでなく、拡大・発展を前提とするか

→拡大・発展を前提とする。

３. 当初設定から拡大・発展の条件を含むか

当初計画から拡大・発展の条件を含みつつ、段階的に拡充。

コミュニティ形成のプロセスとプロセスと最終目標

0. Action group：コミュニティのインフラ形成作業グループ
1. Action group：（単一の機能的・職能group）小グループの居住（一時→継続的）
2. Action group→community：複数の機能が異なる小グループの併存（サポート、生活空間化）

   世代を超えた継続への展開
3. Community：分化したsectionを備えた複雑な生活共同体（世代・家族をない方）の形成、village（1，000名）

   生活世界の形成と生活基盤の移動。

＊1000名規模は、地上での中規模の村レベル

コミュニティ形成のプロセスとプロセスと最終目標

4. Town（10, 000名）

火星や小惑星、アステロイド開発の基地化のベース

5. City level（100,000名）

地球から太陽系開発のHUB化

（環境の安定性から、やがては火星にHUBが移動？）

生活空間としての完結性

生活空間として完結することを目指す。

あるいは、完結性の程度や種類

生業の場／生活の場

Ex.　観光地、ニュータウン、自給自足

→こんなところにポツンと一軒家は家屋の所在地の在り方にすぎない。

経済、社会、政治の自律性、

下位文化の形成

心理的「自律性」:アイデンティティの形成

Communityの性格

非自立性（非自律性）か、自立性（自律性）か

→政治的な単位としてではなく、経済的、社会的な自律性（自立性）とその程度

→これによって文化的自律性が大きく変わる。

居住形態変化のprocess

B.

1. 一時的な居住（短期一時滞在）

2. 世代を超えない、交代居住（中期）

家族帯同？

3. 世代を超える長期居住

・生殖、家族の形成

・1世代20年計算C.

「設計主義」か「ゆらぎ」か

近代建築・都市計画のモダニズム（設計主義）

目的的機能集団（action group）・組織（corporate group、organization）から、

「コミュニティ」「社会」への展開には何が必要か

Cf.communityの生物学的アナロジー（類比）

19（20世紀）的有機生命体論から、20（21世紀）的生命システム論へ

Communityのイメージ

・地上の生活空間をそのまま移植し、再現版、ミニチュア版を月面上に再現するのか？

・地上のローカルコミュニティの在り方をそのまま再現するのか（communityの多様性。日本社会におけるcommunityのイメージ）？）の後

→現実／理想・ユートピア・モデル

cf.　宇宙船「地球号」のイメージの相違

Cf. 東日本大震災の「復興」とポストコロナ、人新世

宇宙という生活世界についてのイメージ

「宇宙生活世界」のimage

ユートピア・夢
リアリティ
宗教・世界観

近代における生活の

歴史的背景

近代社会のイメージを超えることを目指すのか、
あるいは超えざるを得ない状況があるのか
→システム設計における揺らぎの想定

帰納的（経験的）アプローチか、演繹的アプローチか

実際のデータから組み立てる帰納的アプローチは現実的であるが、状況対応的であり、時として技術のインボリューション（退化）とガラパゴス化を招く

技術的イノベーションや社会・文化の大規模な変化は、演繹的アプローチが出発点となる。

環境とcommunityの関係

近代以前:

環境に適応する形でcommunityの在り方、それに対応した技術発展

近代以後

環境自体を改編、設計する思想。環境に作用し、改編する「技術」革新

→月環境の改編（テラフォーミングは困難だが、クレーターなどを利用した大規模な人工的環境形成）

おわりに　根本にある人間観の検討。文化人類学から「人間学」へ

なぜ、人類が宇宙に進出するのか

ホモサピエンス

から

ホモモビリタスへ（community単位での移動）

ホモファーベル

ホモルーデンス

文化・生態人類学系を会わせた人類学的検討